

「神の住所はあなた自身」

～人の間に住まわれたイエス・キリスト～

「キリストは人間となり、この地上で私たちと共に生活なさいました。彼は恵みと真実のお方でした。私たちは、この方の栄光を目の当たりにしました。それは天の父である神の、ひとり子としての栄光でした。」ヨハネ福音書1章14節[リビングバイブル]

もしもイエス様が今私たちの隣に座っておられたらどうでしょうか？

天地宇宙を造られた偉大な全能の神である私たちの父なる神様は、そのひとりしかおられないかけがえのないイエス様を私たち人類に贈物としてプレゼントされました。しかし、それは今から約2000年前のできごとであったので、現代に生きる私たちにとっては現実のこととして認識しにくい内容です。しかし、神様ご自身が私たちと共に住まわれるということは、イエス様のご誕生を境に、世の終りに向かって実現していく過程の中にあります。それこそが主の救いであり、その救いは世の終りに向かってさらに現実のものとなっていくのです。そう考えると、2000年前よりも現代の方が、神様ご自身が私たちとご一緒して下さるという世界が、より現実的になってきているのだと言えるのです。しかしまたそれは、神様の光が輝くようになればなるほど、暗闇の部分もより一層強くなることも事実です。大患難時代というものがやがて訪れますが、その時に備えて、私たちクリスチャンたち、および教会は主への信仰をさらに強固なものにしていかなければならないのです。次は有名なリンカーンの逸話です。

「熾烈な南北戦争が続いていたある日、有名な人気俳優のジェームス・マードリックがリンカーンの招待でホワイトハウスに来たことがある。彼はリンカーンと夕食を取り、戦争に対するいろいろな話をして過ごした後、遅くなったので床に就いた。しかしその晩ジェームスは、ホワイトハウスから遠くないところから聞こえてくる砲声で寝付くことができなかった。そして明け方には、どこからか聞こえてくるすすり泣くようなうめき声のために、それ以上横になっていることができなくなってしまった。ジェームスはベッドから起き上がり、声がどこから聞こえてくるのか、突き止めようとした。音をたどり、彼の足が止まったところは、北側の奥まったところにある大統領執務室で、うめくように叫ぶ声はリンカーンの祈りの声だった。

『愛する神様！私は足りないしもべです。私の力ではなすことができません。新しい力を与えてください。勇気を失わないように助けてください。最後まで神様と共に歩めるように私をお守りください。この民族を哀れみ、一日も早く戦争が終わり、統一した国を作ることができるよう助けてください。戦争で死んでいく若者たちをお守りください…。』

謙遜にひざまずいて祈るリンカーンの姿を見たジェームスは大統領をさらに尊敬し、彼を率先して助けたと言われています。謙遜にしかし熱心に主の前に祈る心がリンカーンの真の信仰でした。闇の現実を知り、主に向かって熱心に祈る心が私たちにも必要なのです。